

肥田舜太郎です。

7月11日に講演に参上するとお約束していながら、体調を崩し、直前になって延期をお願いするという大変なご無礼をいたしました。心からお詫びいたします。体調を回復させ、講演活動を再開して、できるだけ早い機会に話をしに行けるようこころがけますので、今回の無礼な仕儀は高齢に免じてお許し下さるよう、お願い申し上げます。

メッセージ

1. 放射線被害について

昨年の3月11日に福島第一原子力発電所の事故の報道を聞いた時、これまでにないおおごとが始まると直感しました。世界で初めて日本国民が経験した広島・長崎の原爆放射線の被害と同じ被害が福島原発からの被害者に起こるだろうと私は推定しました。それは福島原発が広島原爆のウランウム核種と、長崎原爆の核種プルトニウムを混合したブルサーマルを燃料として燃やしていたからです。同じ核種の放射線に被爆したのですから、福島原発の放射線に被爆した被害者には、広島・長崎の被爆者たちが被爆後に体験した放射線被害が起ってくるに違いないと直感しました。放射線は世界で最高に恐ろしい毒素で、人間の操作から離れると防御できない恐ろしい被害を人体に与え、誰にもそれを止めることができません。

2. 放射線とは

放射線は目に見えないし、色も匂いもなく、もちろん触ることもできません。放射線を出す物質の小さなつぶ(粒子)が空中や人体の中を走っている状態を想像してください。学者の話では粒子の直径が60億分の1mmですから想像のしようもありません。そんな小さな粒子が身体の中の似たような大きさの細胞の構成分子と触れ合って命を作る作業を進めたり、壊したりもするのです。壊されるのが困るのですが、壊し方が分からないので、手も足もでないのです。

3. 外部被曝と内部被曝

外部被曝は放射線を出す放射性物質が身体の外にあって、放射線に体外から被曝する場合をいいます。広島でいえば、爆心地の近くで遮蔽物のない場所の屋外で原爆の爆発を直接受けた場合に当たります。

内部被曝は放射線物質を、呼吸、飲食を通じて体内に取り入れ、放射線に体内で被ばくする場合を言います。広島でいえば、爆発した日は広島市を離れていて原爆の爆発は受けて居らず、爆発後、少なくとも一週間以内に市内に入り、家族の捜索や、救援活動で焼け野原の市内を歩き回り、放射線降下物(死の灰)、残留放射線などに被曝し、体調が悪くなって臨時治療所などに受診した者が内部被曝者に当たります。広島・長崎では外部被曝者は即死するか、急性放射能症で短期間に死亡しましたが、内部被曝者は被曝後、時間がたつにつれて症状を表すものが増え、中には数十年間も苦しみ続ける者もあり、医師が最も対応に苦しんだ症例でした。

4. 放射線量と被害

広島で、爆心地近くの屋外に並んで立っていた二人の親友の高校生が、同時に原爆に被曝し、一人は3日後に急性放射能障害で血を吐いて死亡し、他の一人は83歳で今日現在、元気で生存しています。こんな例は広島・長崎にはいくらかでもある。放射線の被害は、同じ場所で被曝した者でも、決して同じでなく、同じ核種、同じ線量に同時に被曝したそれぞれの個人の、被曝した時の体調の状態によって違った被害の様相を呈するらしい。

5. 自然放射線と人工放射線

専門家がよく使う例に「ニューヨークを二回往復すると飛行中、自然放射線をかなり浴びる。今、福島で県民が浴びている放射線は線量がそれと大体、同じだから心配いらない」がある。人体は自然放射線に対しては何億年も前から強い免疫力を作って生命を守っているが、原発からの人工放射線とは最近付き合いが始まったばかりで、防御力が全くできていない。玄人の専門家がこんな見え透いた嘘で素人をだまして、よく専門家を名乗ってられるものですね。

6. 放射線の高い地域に住む人間はどのように生きればよいか。

①大人はともかく、小学生、中学生と乳幼児は今からでも遅くないから、国の責任で放射線の低い地域へ疎開させるべしというのが私の事故のはじまりからの持論です。子供の数が少なくて人口構成上、次世代の日本の構築にかなりの危惧のある現在、汚染された地域からは貴重な小中学生と乳幼児を安全な地域に移して健康な成長を保障することが国にとって最重要課題であると確信しています。

②現地に仕事をもつ大人たちはどうすべきか。

専門家と称する人たちは、最初の頃、口を揃えて汚染のない地域への移住と、汚染のない食材の確保を奨めていた。そののできない者はどうすればいいのか。この問いに答えた人はいなかったように思います。広島・長崎で被曝した被爆者2万人と、被爆者も寿命いっぱい長生きしようと決意し、原爆後遺症の成人病の発症を抑えれば、被爆者も寿命いっぱい長生きできるとの合意に達し、各自が居住地で米寿、白寿まで生きた先輩を訪ねて長生きの秘訣を聞き歩き、それを全国から集めたところ、寝る、食べる、大小の排泄、労働、遊びと休養、セックスの6つの行為の節度ある実行という答がまとまり、「食べ過ぎ」が最悪の行為であることが判明しました。

7. 両手を合わせ、我が「命」のこと真剣に思うべし。日本に、世界に一つしか無きこの「命」、

死までいかに生きべきか、探るべし。その朝。目覚めなば、すぐ起き出さず。仰臥して両手を腹部に手を置き、二つ三つ大きく腹式呼吸を行い、臍下丹田に力を入れ、これまでわが命を過ごせし道、静かに思い返すべし。この国、今や放射線、空に満ち、水に満ち、土に満ち。生まれくる孫、ひ孫の息する空、野菜、育つ土、飲む水はありたるや。思えばわれ生き来し日々、空、土、水を汚染させ来たらざりしや。

電気むさばりて原発を増設させしならずや。新しき命のため、この国の原発すべて止め、核兵器すべてなくして、汚がせしこの国、きれいにするは汚がせしわれ等、大人の責務なり、政府、企業の責務を突くは当然なるも、子孫に綺麗な故国を残すはわれらの急務ならずやと思はいかがならん。諸兄、諸姉の考えを聞かせ給わば幸甚なり。

2012年7月11日

肥田舜太郎拝